



6 三社神社

(さんしやじんじや)

地図A-2

井田の三社神社の境内には二つの巨石が置かれています。これはいずれも付近にあった井田用会・井田御子守の二つの支石墓の上石です。

井田用会支石墓上石 市指定文化財

(いたようえいせきほうわいし)

■弥生時代早期～前期(紀元前4～前2世紀)

井田用会支石墓は三社神社から北へ約600mの水田の中にあります。上石は355cm×302cm、厚さ約37cmで支石墓の上石としては糸島地方最大で、国内でも最大級のものです。副葬品と思われる管玉22個が出土していますが、これは朝鮮半島にみられるものと同じです。

井田御子守支石墓上石

(いたおごもりしせきほうわいし)

■弥生時代早期～前期(紀元前4～前2世紀)

井田御子守支石墓は三社神社から東へ約300mの集落の中にあります。上石は240cm×240cm、厚さ約100cmで、形が整えられた厚い石が使われています。埋葬施設については不明です。



井田用会支石墓上石



井田御子守支石墓上石

山城

8世紀に吉備真備により日本防衛の拠点として築城された「怡土城」。その後、鎌倉時代よりこの地を治めた原田氏の居城「高祖城」として承きに渡り糸島平野を睥んだ。



国指定史跡

7 怡土城跡

(いとじょうあと)

地図B-1、C-1,2

- 第1望楼
- 第2望楼
- 第3望楼
- 第4望楼
- 第5望楼
- 怡土城大鳥居口跡
- 一之坂礎石群



怡土城は糸島市と福岡市との境にある高祖山(標高416m)の西斜面一帯に築かれた奈良時代の山城です。「続日本紀」によると、天平勝宝8年6月(756年)から神護景雲2年2月(768年)まで約12年の歳月をかけて完成したとされています。築城担当者は当初は吉備真備でしたが、途中から佐伯今毛人に交代し完成しました。

当時をしのぶ遺構としては8か所の望楼跡、山裾には南北約2kmにわたる土塁が確認されています。怡土城の特色の第1点は国の歴史書にその築城の担当者とその期間が明確に記録されていること、また第2点は中国式山城の築城法が採用されていることです。

怡土城は9世紀初めまでは「城」として機能していたようですが、その後、廃城になった怡土城を再利用して「高祖城」が築城されました。



8 高祖神社

(たかすじんじや)

地図C-2

祭神 彦火火出見尊(ヒコホホデミミコト)

玉依姫命(タマヨリヒメノミコト)

神功皇后(シノウケノコウケ)

古代より怡土郡の惣社と崇敬される神社で三代実録に「元慶元年九月二日癸亥「正六位高橋比賣神に従五位下を授く」と記されています。

また、戦国時代には原田氏により高祖城の鎮守の神として祭られました。

【高祖神楽】県指定文化財

高祖神楽は今から五百数十年前の応仁元年、戦国動乱の時代、時の高祖城主原田種朝が京都守護の任にあたった時に習得した「京の能神楽」を郷土に伝えたものとされています。江戸時代までは旧怡土郡の神職の奉仕で舞われていましたが、明治になってからは高祖神社の氏子によって受け継がれました。

現在は十数人の氏子の神楽師によって毎年春(4月26日午後1時から)と秋(10月25日午後6時から)の2回、高祖神社境内の神楽殿で奉納されています。神楽には面を付けずに採り物を捧げて楽の音にあわせ神楽歌を唱えながら静かに舞う舞神楽と面を付けた数人の神楽師が登場して神話物語を展開させてゆく面神楽の2種10番が奉納されています。



9 金龍寺

(きんりゅうじ)

地図C-2

1508年原田興種が建立、原田氏の菩提寺とした禪寺で、境内には原田家の墓があります。庭園は借景庭園で、ツツシの咲くころには高祖山の線に映え、まさに名勝と呼ぶことができます。



21 細石神社

(さざいしじんじや)

地図B-3

祭神 木花開耶姫命(コノハサケヒメノミコト)

磐長姫命(イワナガヒメノミコト)

伊都国の中心にあり、以前は神田も多く大社でしたが、大園狭地により田畑を召し上げられ衰退したと伝えられています。

また、細石(さざいし)や井原(いなら、岩羅)、千代(ちよ、福岡市)などの名や、志賀島神社の神事の台詞から、「君が代の起源がこの地域にある」という説もあります。